生田緑地 丸ごとミュージアムに

学習キットを開発

食物連鎖をわかりやすくまとめたミニ図鑑は親子連れにも人気

ネットワーク情報学部「コンテンツデザインプログラム」の2年次生45人が、生田キャンパスに隣接する生田緑地を丸ごとミュージアムに見立て、親子向けの体験型自然学習キットを開発。1月22日、生田緑地内のかわさき宙（そら）と緑の科学館（川崎市多摩区）で発表イベントを開いた。

「大地」担当班の作った地層の立体地図を組み立てる小学生

選択必修演習科目「応用演習」の成果発表会で、題して「フィールドミュージアム」。小学校高学年の理科で習う「気象」「光と音」など八つの単元に関連したテーマを理解してもらおうと、地図や模型などを小学生らに無料で配布。利用方法の説明や実演を行った。

「大地」担当班（松澤舞代表）が作ったのは、生田緑地内の四つの地層を観察するキット。ペーパークラフトの立体地図、観察ノートに加え、解説サイトも設けた。「学習に役立つうえに家に飾りたくなるデザインを目指した」（松澤さん）立体地図は、緑地内の標高と地層が一目でわかる。

「環境・生態系」担当班（佐野翔平代表）は食物連鎖を学ぶテント形（四角すい）のミニ図鑑を考案した。側面には生田緑地に生息する20種類の動植物や生態ピラミッドのイラストを描いた。実際に動植物を見つけたらシールを貼る仕掛けで、早速試した子どもたちは「たくさん見つけたくていつもより歩いた」と目を輝かせていた。

指導の上平崇仁教授は「体験した人が生田緑地の価値に気づき、より大事に思うようなツールが理想だ」と話す。

コンテンツデザイン　ネット情報2年次生　メディアプロデュース

多摩区 魅力をCM映像に 専大

ネットワーク情報学部「メディアプロデュースプログラム」の学生が川崎市多摩区や専修大学の魅力をCM映像にした、応用演習の成果発表会と優秀作品表彰式が1月26日、サテライトキャンパスで行われた。

入賞した８人と担当教員

2年次生41人による個人41作品・グループ10作品が披露され、個人の中から優秀作品8点が発表された。審査を担当したのは川崎市多摩区と専修大学広報課、同入学センター、担当教員の福冨忠和教授、藤原正仁准教授、渡部健司特任教授。

川崎市多摩区長最優秀賞に輝いたのは榊俊平さんの「マンガの王様に愛された街」。ベレー帽をかぶった〝マンガの王様〟が藤子・F・不二雄ミュージアムやかわさき宙と緑の科学館を訪ね、ゆったりと楽しむ姿を描いた。

稲葉信彦副区長は「全体の構成や映像のクオリティーが高い」と評価した。榊さんは「顔を映さなくてもモチーフの人物が分かるよう小道具にこだわった」と語った。

藤原准教授は「映像制作はまずテーマをよく知り、研究して取り組むことが大切」と話す。

そのほかの個人賞入賞者は次の通り。（敬称略）

▽川崎市多摩区長優秀賞＝伊藤圭祐▽広報課優秀賞＝岩倉真▽入学センター優秀賞＝隆希有▽同特別奨励賞＝倉持黎▽教員特別奨励賞＝遠藤真帆／後藤駿治／藤田英里香

グループ作品のテーマは、かわさき市民活動センター登録のNPO団体をPRすること。映像作品のほかパンフレット、Webサイトも制作した。当日の成果発表会のほか、「かわさきボランティア・市民活動フェア」（1月28日）、「かわさきNPO映像交流会」（2月2日）で展示や発表を行った。

情報科研が出展

川崎国際環境技術展

環境分野における優れた技術を発信する国際展示会「川崎国際環境技術展」（2月16・17日、とどろきアリーナ・川崎市中原区）に情報科学研究所（関根純所長）が出展した。文学部の植村八潮・野口武悟研究室、ネットワーク情報学部の綿貫理明研究室、綿貫プロジェクトの仁木朋美さん（ネット情報3）がポスターなどで研究の成果を展示した。

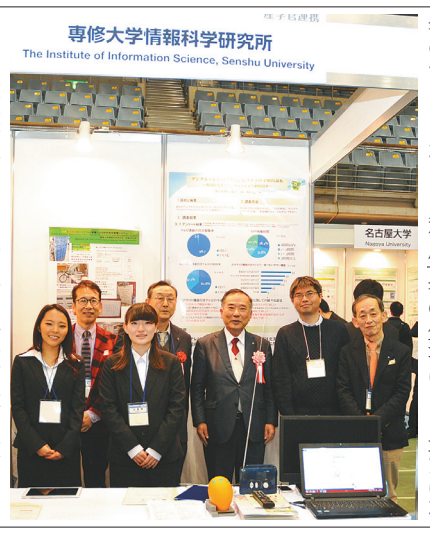
ブースには、同展の副実行委員長を務める川崎商工会議所の山田長満会頭（専修大学理事）も立ち寄り、教員や学生らの発表に耳を傾けた。

植村・野口研究室は、昨年に続き、高齢者や視覚障がい者を対象としたアクセシビリティ（利用しやすさ）に関する研究を発表した。視覚障がい者のデジタルテレビ利用に関するアンケート調査を行い、その結果を説明した酒井未穂さん（文3）は「アンケートやヒアリング調査を行い、テレビ利用の実情を知ることができた。今後も研究を継続し、卒業論文にまとめたい」と話した。

植村教授は「情報技術を利用することで障がい者の生活はより豊かになる。スマートフォンなどのようにアクセシビリティがすでに標準装備されているものがあるということを知らせていくとともに、より使いやすいものを提案したい」と話し、意欲を見せた。

9年連続参加の綿貫研究室は「人力発電と太陽光発電のハイブリッド創エネ」を発表した。

仁木さんは、専大ベンチャービジネスコンテストで鳳賞を受賞したビジネスプランについて説明した。「ポスターに載せる情報や配置など見せ方にこだわった。プレゼンテーションとは違い、短い時間で概要を知ってもらえるよう説明しなければならない。良い経験となった」と話した。



山田会頭（右から3人目）と情報科学研究所の教員ら

卒業アルバム用撮影のお知らせ

新4年次生対象の卒業アルバム個人撮影を3月29日（水）10時～17時、生田・神田両キャンパスで実施する。場所は、オリエンテーションガイダンス日程表を参照。

問い合わせは、学生自治会（生田）☎044・911・6699、（神田）☎03・3263・6901

最後の修了式

KSアカデミー

教員、同期生に感謝の言葉を述べる石河さん

大学院経済学研究科特別教育プログラム「KSI」の2016年度修了式が2月16日、サテライトキャンパスで行われた。11年度にスタートした同アカデミーは今年度でいったん終了。最後の修了生となる6期生8人に、遠山浩アカデミー長から履修証明証が授与された。

遠山アカデミー長、徳田賢二経済学研究科長、川崎市経済労働局長産業政策部企画課の若松秀樹課長が式辞を述べ、修了生を激励した。

修了生を代表して石河久美子さんは「充実したプログラムで、修了レポートを作成するうちに、自分のやりたいことが具体的になってきた。ともに学んできた仲間と今後も進んでいきたい」と抱負を語った。

修了生は、前身であるKSコミュニティ・ビジネス・アカデミー（08～10年開講。全5期で151人）と合わせて259人となった。

遠山アカデミー長は「今後も川崎市が実施する『ソーシャルビジネス振興事業』に協力するなど、コミュニティービジネスやソーシャルビジネスの活動を支援していきたい」と話している。

人間関係を円滑にするための約束事？

～我が家の場合～

Stop Campus Harassment!
ハラスメントのないキャンパスへ

ハラスメントは他人との関わりから生じるものです。そのため、ハラスメントは相手の取り方ひとつで判断され、いついかなる場合にも生じ得るものだと思っている方はいませんか。実は私もキャンパス・ハラスメント対策室員になるまではそのように思っていました。しかし室員になって研修やさまざまな事例を通して、ハラスメントとは、立場や状況の優位性が存在する場合に生じやすいものであることがわかりました。たとえば自分が優位であるときの関係性（先輩―後輩、教員―学生、上司―部下など）や状況においては、意識的か無意識的かに関わらず相手を傷つけてしまうことがあり得るのです。そのような場合・場面では、十分に相手を気遣う必要があります。

話は飛びますが、我が家には幼い頃から繰り返し聞かされてきた約束事があります。それは「自分が嫌だと思うことは他人にもしないこと」。人生において争いやストレスの原因となるのは主に人間関係ですから、少しでもそれを円滑にするために親がくれた知恵だったのだと思います。しかし、当たり前ですが自分が嫌だと思うことはわかっても、他人が何を嫌だと思っているのかを知るすべはありません。ですから、この約束事を守っていても軋轢（あつれき）が生じることはあるでしょう。ですが、この約束事が優れていると思うのは、「自分と相手が対等である」という前提に基づいている点です。多くの人が時には今ある立場や状況から離れて、相手のことを自分と同じ人間だとして思いやる気持ちを持てたなら、ハラスメントは生じにくくなるのではないでしょうか。ただ、それが難しい状況も現実には多々あります。そのような状況で悩みを持った時には迷わずにキャンパス・ハラスメント対策室に相談に来てください。

（キャンパス・ハラスメント対策室員・赤坂　郁美）